

平成 22 年度第 1 回国土地理院研究評価委員会 議事概要

8 月 3 日に開催された標記委員会において、平成 23 年度から新規特別研究として実施を予定している 4 課題についての審議・評価が行われた。

委員会では、まず、新規特別研究のそれぞれの課題ごとに国土地理院の研究担当者から研究概要の説明がなされ、その後に委員による審議、続いて評価が行われた。

各課題に対する評価は、以下のとおりである。

- (1) 測地観測に基づく地殻活動イベントの検知能力に関する研究
基本的に研究を進めることが望ましい。
その場合、しっかりとした計画を立てて進められたい。特に想定する地震のモデルを明確にし、実用に耐え得る成果を出していただきたい。
- (2) プレート境界の固着状態及びその変化の推定に関する研究
基本的に研究を進めることが望ましい。
その場合、これまで数ヶ月単位で処理していた GPS のデータを日単位で処理する上での技術的な課題・問題を明確にして研究を進められたい。
- (3) 公共的屋内空間における三次元 GIS データの基本的仕様と効率的整備方法の開発
2次元データの整備が進んでいる中で、今後は必然的に3次元データの整備を進めるという点でこの研究を進めるのは望ましい。
その場合、公共的屋内空間のデータと既存の屋外のデータとの整合性が取れるよう、また、検証が出来るよう進められたい。また、この研究に関しては外部の意見も取り入れる形で研究を進めることも検討されたい。
- (4) 航空レーザーデータを用いた土地の脆弱性に関する新たな土地被覆分類の研究
航空レーザーデータを用いた土地の分類というのは非常に広い応用性を持つ。崩壊に関して研究を進める場合、日本は北海道から九州まで範囲が広いので、その中で一般性が得られるようにモデル地域を明確にし、広く応用できるよう研究されたい。また、地形、地質、その他のデータを丁寧に集め、それらを総合的に加味して進められたい。

以 上